

【総領事館からのお知らせ:安全対策情報:12月】

平成23年12月12日(総11第32号)
在デンパサール日本国総領事館

1 治安情勢

- (1) 11月17日～19日にバリ島ヌサ・ドゥアで開催されたASEAN(東南アジア諸国連合)関連首脳会議に伴い、事前の情報提供がなく突然ヌサ・ドゥア地域への立ち入りが大きく制限、ヌサ・ドゥア地域と空港間のバイパスを中心に道路規制も頻繁に行われた。警備当局による規制等の事前情報が全く周知されず会議参加者にも混乱が生じた。また、規制箇所での対応もまちまちであった。バリ島では今後も国際会議等が開催されることが見込まれるので、予想外の規制等が突然行われることに注意が必要。
- (2) 9月にシンガポール人、そして12月にオーストラリア人観光客女性をサヌールのマングローブ林に連れ出し、暴行しようとしたインドネシア人男性が12月5日、警察に逮捕された。
- (3) 12月9日午前10時頃、西デンパサールのユニレバー社に窃盗が侵入し、会社の金庫を壊した上で350万ルピア(約35,000円相当)を持ち逃げした。
- (4) 12月9日午後、デンパサール市のウイビサナ通りの住民が手榴弾のような不審物を発見したことを受け、機動隊の爆弾処理班が急派された。爆弾処理班が不審物の中身を機動隊本部で確認したところ、白煙が出たものの爆発することはなかった。警察によれば、不審物は訓練で使われる発煙弾であるが、すでに使用済みであった。

2 一般情勢

- (1) 11月17日～19日、バリ島ヌサ・ドゥアでASEAN(東南アジア諸国連合)関連首脳会議が開催され、ASEAN各国の首脳をはじめ日本から野田総理大臣が出席した他、米国のオバマ大統領も初めて参加した。
その後も、ヌサ・ドゥアでは無形文化遺産に関する第6回ユネスコ会議やアジアの民主主義を討論する第4回バリ民主主義フォーラムが開催された。
- (2) 11月22日、バリ州議会は、高さ15mを超える建築制限の撤廃等を含んだ法令の立法化を無期限に延期すると決定した。一方、大学教授やヒンズー教指導者、環境保護NGO関係者らは、もしバリ州議会がバリ島の宗教倫理を撤廃することになれば、憲法裁判所へ提訴する構えであった。パスパヨガ副知事や闘争民主党バリ支部も建築制限の撤廃に反対していた。
- (3) バリ島南部のデワ・スチ・ロータリー(通称シンパン・シウール)周辺地区の土地収用が最終段階を迎え、12月15日から同地区の渋滞を緩和するため地下道の建設が開始される模様。また、ヌサ・ドゥアとタンジュン・ベノアの間では、有料道路の建築が予定されており、国営企業のジャサ・マルガ道路建設会社等2社が請け負った模様。

3 邦人事故・事件関連

- (1) 在留邦人家族がデンパサール入管事務所(レノン)の駐車場で、車を離れた短い時間の間に窓ガラスが割られ貴重品等を盗まれる事件が発生した。建物の敷地内でも車上荒らしは発生すると意識した上で、貴重品を車中の見える場所に放置しない等の注意が必要である。

以上